



令和 8 年度 前期学校評価アンケート結果報告

1 実施期間

令和 8 年 8 月 3 1 日～9 月 1 1 日

2 対象

保護者 (小学部、中学部、高等部)

児童生徒 (小学部、中学部、高等部)

教職員 (管理職を除く)

3 実施方法

保護者・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

紙媒体もしくはアンケートフォームより回答

児童生徒・・・各項目について「実現度」を 3 段階で回答

紙媒体もしくはアンケートフォームより回答

教職員・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

アンケートフォームより回答

4 回答数 (率)

	保護者 2 3 5	児童生徒 2 4 2	教職員 1 7 1
R 8 前期	1 6 4 (7 0 %)	9 6 (4 0 %)	1 6 8 (9 8 %)
R 7 前期	7 0 %	2 7 %	9 7 %
R 7 後期	6 8 %	3 4 %	9 6 %

※割合は百分率で示し、小数第 1 位を四捨五入して整数で示す

※保護者数は、兄弟姉妹等の重複を除く家庭数で示す

※R 7 前期／後期については、回答率のみ示す

5 アンケート項目について

本アンケートは、「令和8年度京都市立呉竹総合支援学校グランドデザイン（※下記参照）」に示された学校教育目標「社会参加し、自分らしく生き生きと活動したいという児童生徒の願いを実現する」の達成状況を把握するとともに、「めざす児童生徒像」「めざす学校像」「めざす教職員像」及び「令和8年度重点的取組」の実現度を検証することを目的として、選択形式及び自由記述によるアンケートとして実施した。

設問は、学校教育目標の実現に向けた教育活動の成果と課題を把握できるよう、「主体的な学び」「人との関わり」「自己表現」「役割や社会参加」「安全・安心な学校づくり」「地域との連携」などの観点から構成した。

また、本校では研究テーマ（3年次）『わたしのウェルビーイング～子ども主体のウェルビーイングを考える～』のもと

▶小学部「自己選択・自己決定」～遊びきる！“好き”を見つけよう～

▶中学部「他者への発信」～“好き”に向かう力の育成！自分から環境に働きかけよう～

▶高等部「自己理解・自己発見」～自分自身がウェルビーイングになるために～

を重点として研究を推進している。学校教育目標の実現状況を評価する視点を基本としながら、子ども主体のウェルビーイングの実現に関わる教育活動の状況についても把握できる内容とした。



6-1 実現度に関する分析結果〔保護者、教職員〕

保護者（各部／全体）、教職員のアンケート結果より、肯定的な選択項目となる「よくできている」「大体よくできている」の回答を合わせた割合（％）を示す。

※各項目、割合を百分率で示し、小数第1位を四捨五入した整数で示す

質問項目	上段がR 8 前期 下段がR 7 前期/後期				
	保護者 (小)	保護者 (中)	保護者 (高)	保護者 (全)	教職員
1. 学校は、子どもたちの思いや反応をていねいに受け止められている	100 98/94	95 91/93	93 98/95	96 97/94	97 99/99
2. 学校は、子どもたちがいろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる	93 98/91	95 94/98	96 97/99	95 96/96	98 95/97
3. 学校は、子どもたちが「やってみたい」と思える学習に取り組んでいる	99 92/97	95 82/95	85 91/92	92 89/94	95 95/93
4. 学校は、子どもたちが自分なりの方法で思いや考えを伝えられるように取り組んでいる	97 98/96	96 91/95	89 94/97	93 95/96	95 93/95
5. 学校は、子どもたちの願いや目指す姿を本人や保護者と共有している	96 96/100	90 88/95	90 94/95	92 93/97	91 90/93
6. 学校は、子どもたちが役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる	93 93/93	96 88/93	86 93/97	91 92/94	95 96/96
7. 子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている	98 87/99	91 94/96	97 94/92	95 91/91	98 98/99
8. 学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる	92 91/89	95 93/90	90 96/93	92 93/91	96 96/94
9. 学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている	95 100/100	95 94/100	92 94/96	94 95/98	89 90/92
10. 学校は、地域や社会とのつながりを大切にしている	91 87/89	85 80/91	88 83/87	89 84/89	89 91/90
11. 学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている	100 98/98	95 93/97	95 98/97	97 96/98	97 94/96

以下は、教職員のみを対象とした項目

12. 教育活動では、情報端末が有効に活用されている					88 85/86
13. 子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを振り返り、授業改善に生かしている					91 92/86
14. 地域の学校園や施設、関係機関からの相談に丁寧に対応している					88 78/74
15. 業務の見直しに向けて、意見交換を行いやすい雰囲気がある					86 85/83
16. 自分の働き方について、ワークライフバランスを意識したり工夫したりしている					84 78/76

項目 1 ～ 1 1 における分析結果〔保護者・教職員〕（以下、保護者：保、教職員：教と示す）

① 子ども理解と安心できる学校づくり

「子どもたちの思いや反応をていねいに受け止められている（保 96%・教 97%）」や「子どもたちが安心・安全に学べる場となっている（保 97%・教 97%）」は、双方ともに高い実現度を示している。子ども一人一人を大切にしたい支援や安心できる学習環境づくりについて、保護者と教職員の認識が一致しており、本校の教育活動の土台となる部分が高く評価されていることがうかがえる。

② 「人との関わり」を大切にしたい教育活動

「いろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる（保 95%・教 98%）」や「自分なりの挨拶を実践できている（保 95%・教 98%）」は、双方ともに高い実現度を示している。社会性やコミュニケーション力の育成に関する取組や、卒業後の社会参加を見据えた教育活動が評価されていることがうかがえる。また、教職員の方がやや高くなっていることから、日常的に意識して取り組んでいる様子を感じ取れる。

③ 「主体的な学び」や「役割づくり」

「やってみたいと思える学習（保 92%・教 95%）」や「役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる」（保 91%・教 95%）は、双方ともに高い実現度を示している。教職員の方がやや高くなっていることから、子どもたちの主体性を育む取組を意識的に進められていると感じ取れる一方で、その様子を保護者へさらに分かりやすく伝えていく必要性も感じられる。

④ 保護者との共有

「子どもたちの願いや目指す姿を本人や保護者と共有している（保 92%・教 91%）」は、双方 90%を超える実現度を示しているものの、他の項目と比べるとやや低い結果となっている。日々の情報交換や、教育活動の基盤となる個別の包括支援プラン等用いて、現状や今後の方向性について共有していくことへのさらなる充実への期待を感じ取れる。

⑤ 情報発信

「お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている（保 94%・教 89%）」について、保護者は比較的高く評価している一方で、教職員は、発信内容や頻度について課題と感じている結果とも捉えられる。各部署と課題意識の共有を図りながら充実を図っていきたい。

⑥ 地域とのつながり

「地域や社会とのつながりを大切にしている（保 89%・教 89%）」は、双方ともに 90%を下回った。数値が一致している点からも、双方が地域とのつながりを今後さらに充実させていく必要があると感じていることがうかがえる。自由記述からも、地域での活動機会や地域との交流を求める意見があり、学校での学びを地域社会へつなげていく取組への期待が感じ取れた。

令和 9 年度の完全移転に先立ち、冬季休業中にホームルーム教室やワーク棟、図書館の引っ越しを行い、1 月からは新たな環境で教育活動を進めていくこととなる。昨年度より始動した「地域協働プロジェクト」「地域支援プロジェクト」を効果的に運用しながら、地域とのつながりを一層広げられるよう取り組んでいきたい。また、教育課程の見直しや教材ルールの整備・活用についても継続して検討を進めるとともに、呉竹が地域の核となる学校を目指し、実践を積み重ねていきたい。

項目 1 2 ～ 1 6 の分析結果〔教職員のみ〕

項目 1 ～ 1 1 と比べると、各項目相対的に低く表れているが、昨年度比較でみると着実に前進している様子もうかがえる。

「子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを振り返り、授業改善に生かしている」は 91% と高い実現度を示しており、子どもたちの学びや成長を丁寧に振り返りながら授業改善を進めている意識がうかがえる。また、「情報端末の有効活用（88%）」においても、一人一人の実態や学習のねらいに応じた I C T 活用が着実に進められている様子もうかがえる。

さらに、「地域の学校園や施設、関係機関からの相談に丁寧に対応している（88%）」は、昨年度より大きく数値が伸びている。センター的機能を担う学校として、特定の部署に関わらず教職員一人一人の取組や意識が確かなものとなってきた様子が感じとれる。

一方で、「業務の見直しに向けて、意見交換を行いやすい雰囲気がある（86%）」や「ワークライフバランスを意識したり工夫したりしている（84%）」は、他の項目と比較するとやや低い結果となった。しかし、いずれも一定の肯定的評価を示しており、教職員が学校運営や働き方について主体的に改善を進めようとしている姿勢がうかがえる。持続可能な教育活動の充実を支えるためにも、引き続き業務改善や業務の効率化を進め、教職員一人一人が力を発揮できる働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきたい。

6－2 実現度に関する分析結果〔児童生徒〕

児童生徒の実態に応じて、本人による回答、担任による聞き取り等で回答を行っている。表では、児童生徒のアンケート結果より、小学部・中学部・高等部の「そう思う」の回答を合わせた割合（%）を示す。

質問項目	上段 R8 前期
	下段 R7 前期/後期
1. 自分の体や気持ちを大切にしている	82
	83/83
2. クラスや学年の友だちと一緒に活動できている	91
	83/85
3. 学校で「やってみたい」と思える活動がある	74
	70/74
4. 困った時、先生に話をしている	79
	81/74
5. こんな自分になりたいという願いや夢をもっている	75
	63/73
6. 学校で自分のやることや役割がある	84
	84/88
7. 自分なりの方法であいさつをしようとしている	89
	91/79
8. ルールや約束を守ろうとしている	87
	84/82
9. 授業がわかり、楽しく活動できている	87
	86/89

「クラスや学年の友だちと一緒に活動できている（91%）」、「自分なりの方法であいさつをしようとしている（89%）」、「ルールや約束を守ろうとしている（87%）」、「授業がわかり、楽しく活動できている（87%）」は高い数値となっており、友だちとの関わりや集団活動への参加、基本的な生活習慣や学習への前向きな姿勢が育まれている様子がうかがえる。

「こんな自分になりたいという願いや夢をもっている（75%）」は、前年度より向上しており、日々の教育活動を通して、将来への見通しや自己実現への意識が高まってきていると考えられる。

「学校で『やってみたい』と思える活動がある（74%）」は、前年度とほぼ同水準である。児童生徒一人一人の興味・関心や実態に応じた学習活動と合わせて、外部講師や地域資源の活用、地域との協働活動などの充実も図りながら、子どもたちの「やってみたい」を引き出せる実践を積み重ねていきたい。

「困った時、先生に話をしている（79%）」からは、学年・学部を中心とした関係づくりが進められている様子がうかがえる。引き続き困ったときに自ら相談したり表現したりできるよう、日常的なコミュニケーションを大切にしていきたい。

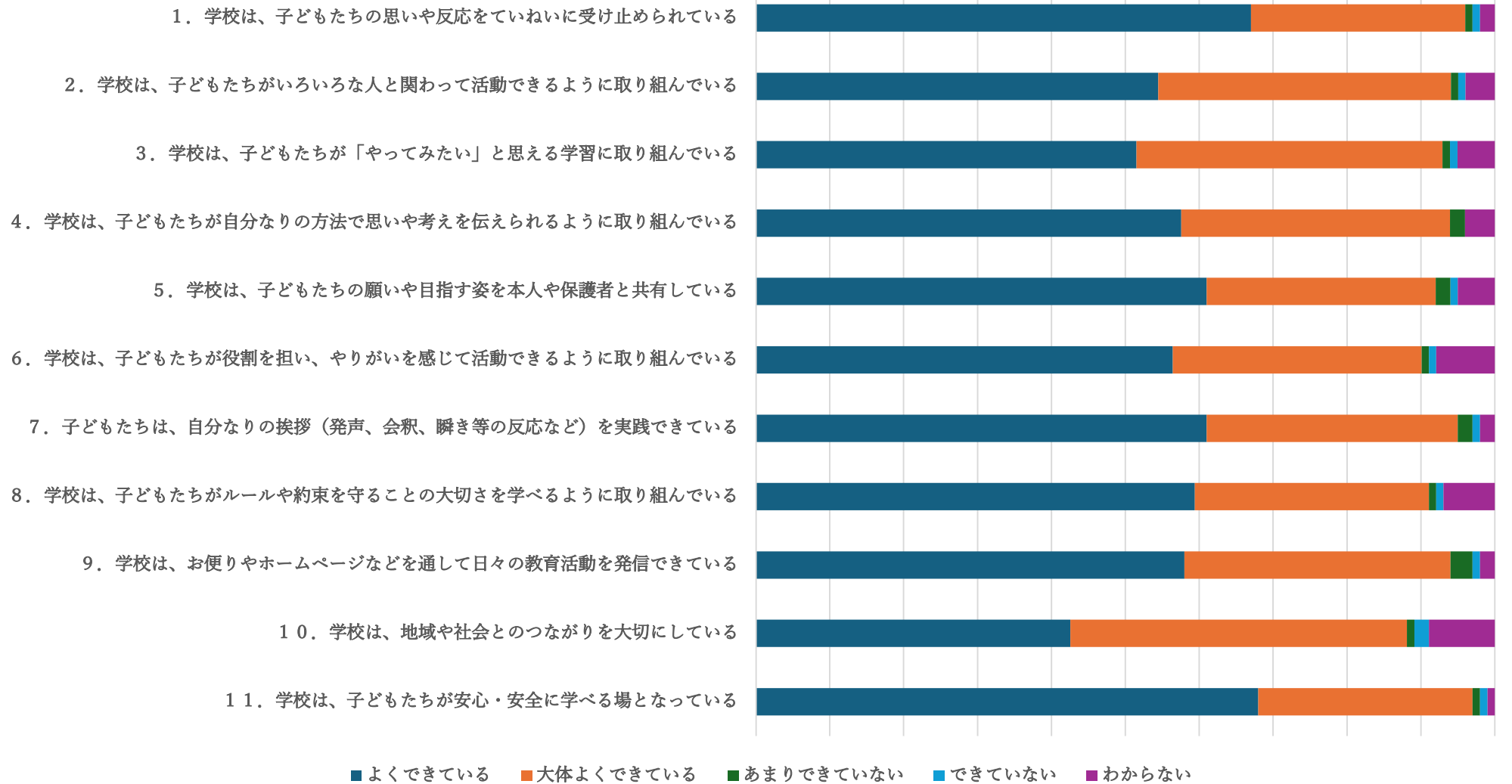
上記の結果から、友だちとの関わりや集団活動への参加、あいさつや規範意識など、学校生活の基盤となる力が育まれている様子が読み取れた。また、「こんな自分になりたい」という将来への願いや目標について、児童生徒一人一人が自分らしい姿を思い描いている様子もうかがえる。

さらに充実した学校生活につなげていくためには、保護者や教職員の分析結果から見てきた「地域とのつながり」を一層広げていくことが重要であると考え。今後も、地域の人々との関わりや体験的な学びの機会を充実させながら、地域社会の中で自分らしく生き生きと活動できる児童生徒の育成に取り組んでいきたい。

7. 実現度比較

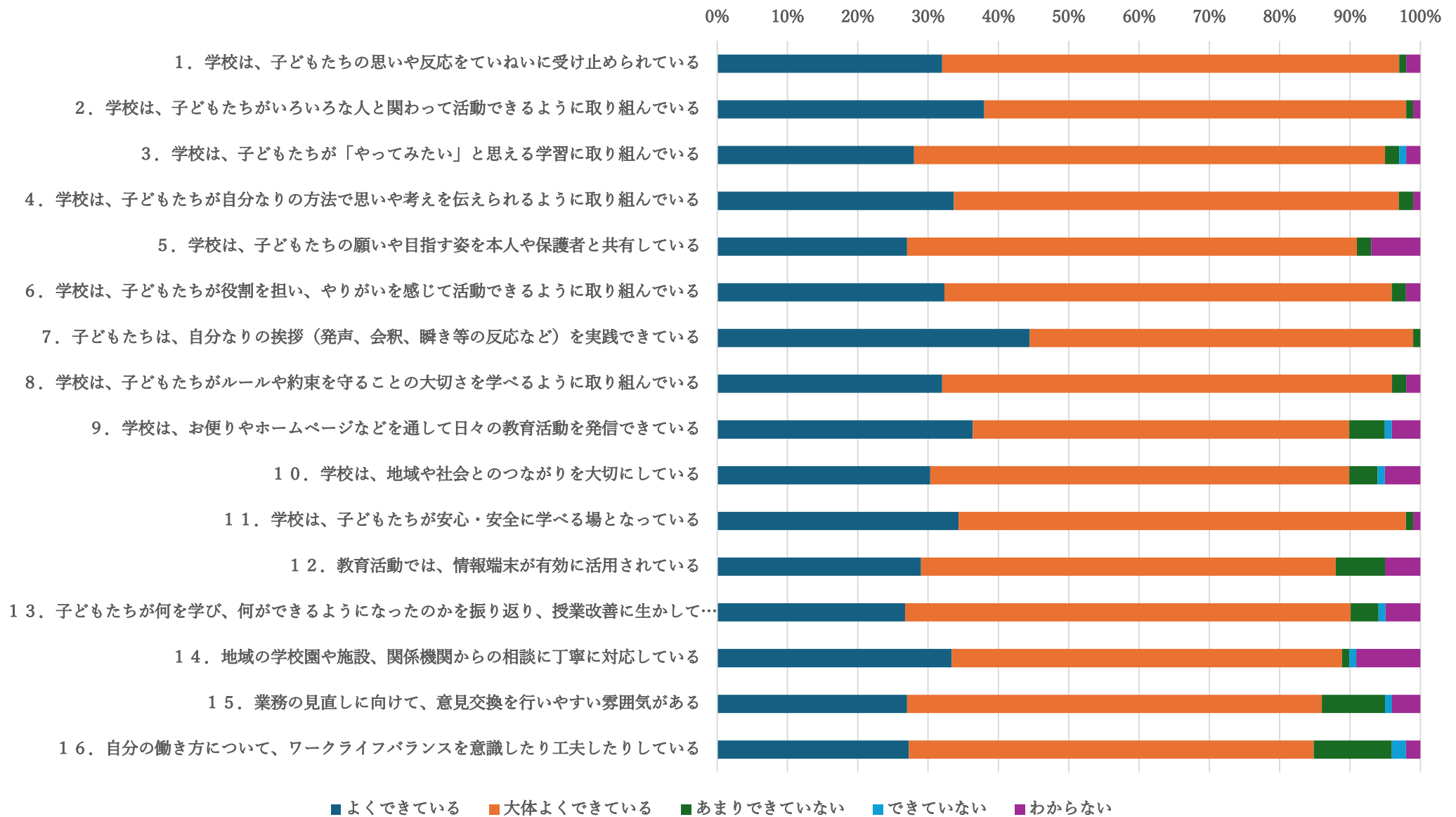
保護者

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



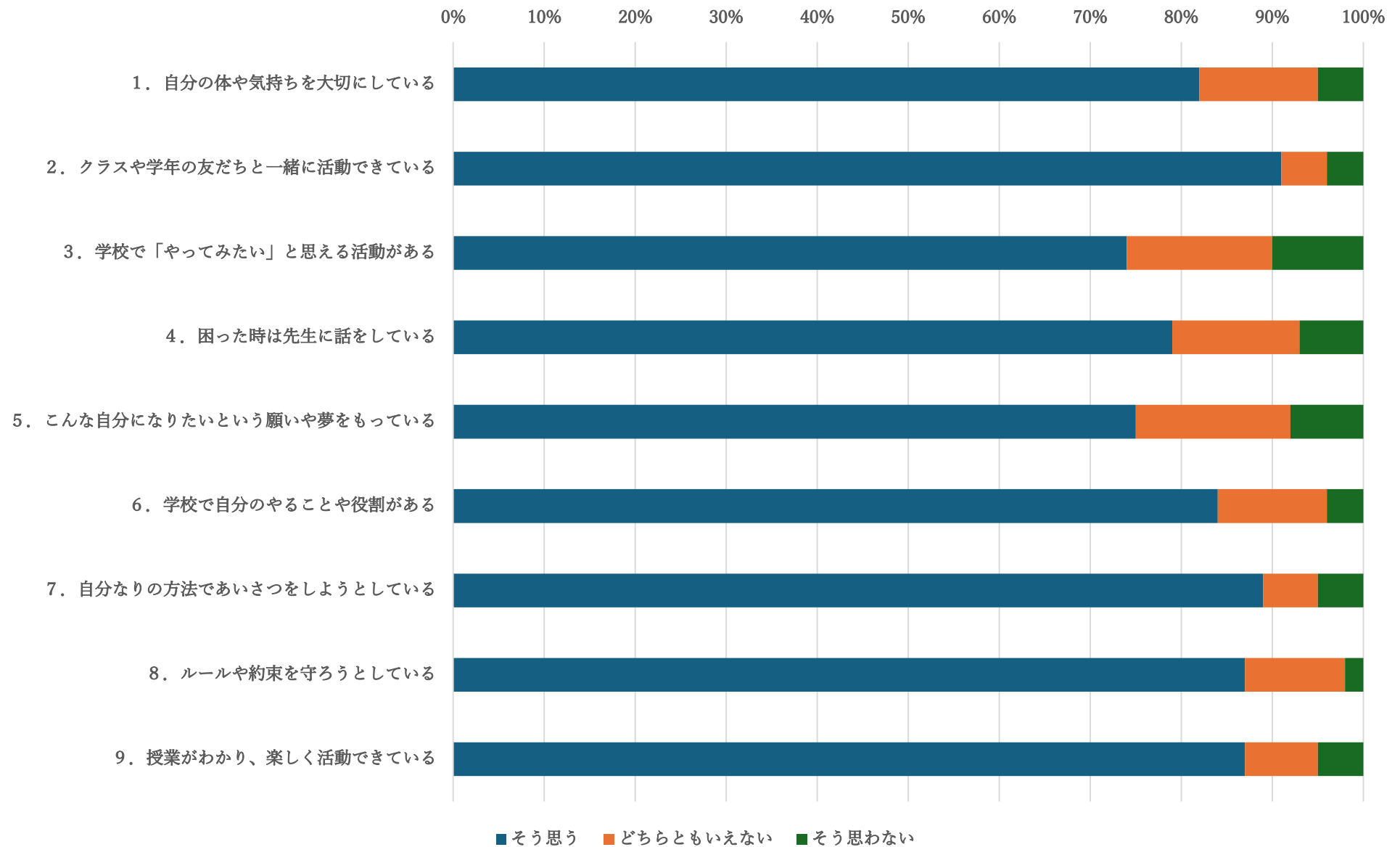
※割合は、小数第1位を四捨五入しているため、100%積み上げグラフの構成比や合計が一致しない場合があります。

教職員



※割合は、小数第1位を四捨五入しているため、100%積み上げグラフの構成比や合計が一致しない場合があります。

児童生徒



※割合は、小数第1位を四捨五入しているため、100%積み上げグラフの構成比や合計が一致しない場合があります。